

# 乳がんで失った胸、産後の抜け毛… 医療「アートメイク」注目



アートメイクで本物そっくりの乳頭・乳輪を再現するアピアランスビューティクリニックの堀口和美院長(本人提供)

## 「見た目」の悩みに寄り添う

皮膚の表面に針で色素を入れ、眉やアイラインなどに色を定着させる「アートメイク」。化粧の手間が省けるなど美容目的で施術するイメージが強い。だが、近年は乳がんで失った乳頭・乳輪を再現したり、傷痕や薄毛を目立たなくしたりと、「見た目(アピアランス)」の悩みに寄り添う医療行為としても注目されている。(新西まほ)

「命があつて、胸もある。最初はそれだけで幸せと思っていたんだけど…」  
東京都豊島区に住む女性(67)は48歳の時、乳がんで右乳房を全摘し、乳輪と乳頭の再建手術を受けた。胸の膨らみは戻ったが、自身

の皮膚を乳頭に移植する方法を選択しなかったこともあり、色も形も不自然に入浴時に胸を見るたび気持ちが悪くなり、温泉にも行きづらくなった。

アートメイクの技術を使って乳頭・乳輪を再現する方法があると知り、2021年秋に「アピアランスビューティクリニック」(同区)で施術を受けた。アートメイクは医師、看護師のみが行える医療行為だ。皮膚のごく浅い層に針で色素を入れ、乳頭や乳輪を立体的に描いていく。所要2時間程度。約1カ月後に再度施術し、色素を定着させると、2〜5年ほど維持できるという。女性の右胸は施術後、健



産後の抜け毛に悩む女性に頭皮へのアートメイクを行う看護師の月乃なつさん=1月、東京都港区のクリニック

康な左胸とほぼ変わらない見た目に。「治療後も」がんで変わった自分」と向き合う人生は続く。その「痛み」を軽くしてくれる方法があるのがあるがたい」

軽減できる」と話す。また、口唇口蓋裂の手術後に唇の輪郭を整える、白斑や傷痕に色を入れて目立たなくさせるといったことも可能だという。

クリニックの堀口和美院長は、16年間乳腺専門医として9万人以上の乳がん患者を治療してきた。抗がん剤治療で髪や眉、まつげが抜け、肌や爪が荒れて、胸も失い…。外見の変化に苦しむ女性たちの姿に「命を救うだけでは患者は救われたい。治療後の人生を支えたい」と、20年に「アピアランスケア」に特化したクリニックを開業した。

「産後に抜け毛がひどくなり、分け目が目立つのが悩みだった」と振り返るのは、徳島県在住の女性(36)。友人や夫にも胸の内を打ち明けられなかった。育毛剤や一時的に頭皮を隠すパウダーを使用することも考えたが、子育てで慌ただしく、日々の手間は省きたい。SNSで頭皮へのアートメイクを知り、24年12月に初めて施術。地肌の白さが隠れ、毛量が増えたように見えるため、「鏡を見るたびに感じていたストレスから解放され、気持ち

が明るくなった」と話す。担当した看護師、月乃なつさんは、先進地の韓国で

技術を学び、年間800件以上の頭皮アートメイクを施術。「点で頭皮に影を描くことで、ふんわり毛があるように見えるのがポイント」。産後や加齢による脱毛だけでなく、甲状腺疾患やがん治療による薄毛で施術を受ける人もいるという。投薬など他の薄毛治療とも併用できる。

アートメイクをめぐるのは、過去、医師などの資格がない人による施術でトラブルが続出。そこで、17年に医師や看護師らが「日本医療アートメイク学会」を設立し、技術や安全性の向上を目指して研修会などを開く。理事長を務める東京皮膚科・形成外科の池田欣生総院長は「必ず医師による対面診察がある医療機関で施術を」と呼びかける。色素によるアレルギー反応や感染症が起きる可能性▽数年で薄くなるが完全に消えず、除去にはレーザー照射などが必要▽施術者の技術で仕上がりが変わる▽保険適用外のため医療機関によって費用に差がある―というデメリットもあり、正しい情報を得た上で、施術は慎重に受けたい。